

私はかきが大好物だ。「海のミルク」と呼ばれるかきは、旬の季節になると、毎年我が家の食卓をにぎわせる。また、毎年かきの旬の季節になると、多くのメディアでとりあげられることがあり、私はそのことを楽しみにしている。

以前、かきについて報道しているテレビがあったため、見てみるとかきの養殖場の人が

「いいかきを育てるために、山を育てています。」

と言っていた。かきを育てるために、海の環境を整えたり、海の近くのごみを拾うのはわかるが、なぜ山を育てたり、木を植えたりするのかはよくわからなかった。なぜなら、かきは海で生きているからだ。山とは全く関係がないのではないかと思った。しかし、実は山とかきは大きな関係があるのだ。

日本は面積のおよそ四分の三が山地で、そこに川の源流がある。その川の水はやがて海へ流れていく。そのため、山が汚いと山の汚れをふくんだ水が川から海までいってしまう。逆に、山がきれいだと言われれば山の養分がたくわえられたきれいな水が、川から海へと流れていく。山をきれいにし、育てることが山の養分をふくんだきれいな水を川や海に届けることになる。そして、その水がより大きくなって、ミルクのように濃厚なかきを育てるのだ。つまり、山を育てることの本当の意味は、水を育てるといふことなのだ。

では、私たちには水をきれいにするためにどのようなことができるのだろうか。もちろん、私たちだけの力では木を植えることなどはできない。しかし、近くの川に落ちているごみを拾って捨てたり、洗剤や油をそのまま流さなかつたりすることで、山が育ててくれたきれいな水を守ることができるはずだ。このように、私たち一人一人の力は小さくとも、積み重ねることによって、きれいな水を守る大きな力になるのではないか。洗剤や油の入った汚水は、きれいな

な水に戻すのに、大量の水が必要になったり、浄化するための手間がかかたりする。また、汚水をそのまま海や川に流すと、海の生物に悪影響をおよぼす。だから、洗剤や油をそのまま流すことをやめることが川や海のためになるのだ。私たち一人一人のきれいな水を守るための努力は小さい。しかし、その小さい努力を積み重ねることによって、地球の水環境を守る大きな力へ変わるのではないか。

人や動物、植物を支えている水。私たちは水がなくては生きていくことは出来ない。だから、人はもっと命を育む水を大切にいつか守るべきだ。これからは、私も山が育んだきれいな水を、海へ届けるため、きれいな水をこみや汚水で汚してしまうことのないように気をつけて生活したい。